

授業科目名： カリキュラム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷口 和也
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 学習者は、本授業を通じて、近年の教育政策のもと多用されるようになった参加型学習について理解するとともに、その必要性及び具体的な課題とその対応策について、また、近年の新しい教育内容に対応する教育方法の具体的な指導法について身に付けることができる。			
授業の概要 本授業は大きく四つのパートから成り立っている。 第一パート（第1～4回）は、現代カリキュラムの基本的問題について。第二パート（第5～8回）は、新世代のカリキュラムにどう対応するかについて。第三パート（第9～12回）は、教科・領域横断のカリキュラムを実施することについて。第四パート（第13～15回）は、カリキュラムをマネジメントすることについて論じる。			
授業計画 第1回：カリキュラム原理の多様性 第2回：学問・子ども・カリキュラム 第3回：ゆとり世代とは誰のことか？ 第4回：ぶれない！媚びない！学習指導要領 第5回：変わる教師の役割 第6回：進化する教科書と授業方法 第7回：議論を支える基礎・基本 第8回：絶対評価と到達目標 第9回：地域の多様性を利用したカリキュラム 第10回：異学年での学びを前提としたカリキュラム 第11回：社会参画と子どもの役割自覚 第12回：教科連携型の防災「化」授業試案 第13回：誰がカリキュラムをつくるのか？ 第14回：反省的实践家としての教師の役割 第15回：カリキュラム開発の具体的課題			
テキスト			

- ・記入用のポートフォリオ（80頁ほど）を使用し、テキストは使用しない。
- ・中央教育審議会（2016）『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』や、公開されている「対話的・主体的で深い学びの実現」に関わるパワーポイント資料、21世紀型学力に関する議論の該当箇所はすべて、このポートフォリオに記載されており、Webを参照しながら予復習に充てる。

参考書・参考資料等

- ・教育の情報化に関する手引作成検討会（2010）「教育の情報化に関する手引」文部科学省。
- ・文部科学省（2013）「学校防災のための参考資料 『生きる力』を育む防災教育の展開」

学生に対する評価

- ・予復習欄、授業中に学んだことやディスカッションの内容、パートごとのふり返しを含んだ80頁程度のポートフォリオを配布する。
- ・学生はその学びの過程を記録して行き、各記入欄に書いていく。この記入欄に1～3点が配されており、予復習の成果やディスカッション、受講の成果が蓄積されていく。
- ・その記入欄の配点を合計すると100点になるが、評価は獲得したその合計点で行う。